

障がい児者への性暴力に関するアドボカシー事業

[報告書]

障がい児者への 性暴力が 認められる社会へ

特定非営利活動法人しあわせなみだ

特定非営利活動法人しあわせなみだ

<http://shiwassenamida.org/>
info@shiwassenamida.org

理事長 中野宏美

監修：岩田千亜紀（東洋大学社会学部社会福祉学科助教）

アドバイザー：金子磨矢子（大人の発達障害当事者のためのピアサポート Necco 創設者）

制作メンバー：河村優子 / 古賀捷平（鳥取大学大学院）・菊池悦子（明治大学）

編集協力：高祖常子（株式会社ブライト・ウェイ） / 坂本真一郎（クオルデザイン）

発行：2018年7月

本調査はNPO法人まちぼっと2017年度ソーシャル・ジャスティス基金により実施されました



障がい児者への 性暴力に対する要望

—要望— 1

刑法性犯罪処罰規定に「被害者が障がい児者であることに乗じた性犯罪」を創設してください。

●被害者が障がい児者である場合、被害者と加害者の間には「それが性犯罪であるという知識・情報・判断」に、圧倒的な差が生まれます。また、「それが性犯罪である」と理解できても、「性犯罪から逃れるための知識・手段・時間」は、圧倒的に不利な状況に置かれます。

●加害者と被害者との間に大きな力関係が生じることを踏まえ、地位関係性に基づく性犯罪として、「被害者としての障がい児者」の概念を入れてください。

—要望— 2

1が困難である場合、被害者が障がい児者であることをもって、「準強制性交等罪」もしくは「準強制わいせつ罪」を適用してください。

●被害者が障がい児者である場合、被害者が抵抗の意志を示しても、第三者が「それは抵抗である」と理解することが困難な場合が少なくありません。また、「それは抵抗である」と認識できても、障がいのある被害者が裁判で「加害者が暴行脅迫を用いた」と立証することは、非常に困難です。

●障がいのある被害者が、第三者に抵抗の意志を示し、立証することが難しい現状を踏まえ、「準強制性交等罪」「準強制わいせつ罪」の「拒不能」の要件に「被害者が障がい児者であること」を盛り込んでください。

—要望— 3

1・2が困難である場合、刑法性犯罪の運用において、障がい児者の特性を踏まえた対応を義務化することを明言してください。

●障がい児者が被害者である場合、性犯罪に対する認識、逃れる方法、裁判での証言に限界があること等を踏まえ、適切に対応していくことを、附則、附帯決議、通知、通達等に明記してください。



障がい児者とは

■身体障害(身体障害者福祉法)

◎視覚、聴覚、平衡、音声、言語、そしやく、肢体、心臓、じん臓、呼吸器、その他政令で定める障害(直腸、小腸、肝臓、免疫不全)で、永続し、かつ、日常生活が著しい制限を受ける程度であると認められるもの

■知的障害(厚生労働省「知的障害児(者)基礎調査」)

◎知的機能の障害が発達期(おおむね18歳まで)にあらわれ、日常生活に支障が生じているため、何らかの特別の援助を必要とする状態にあるもの

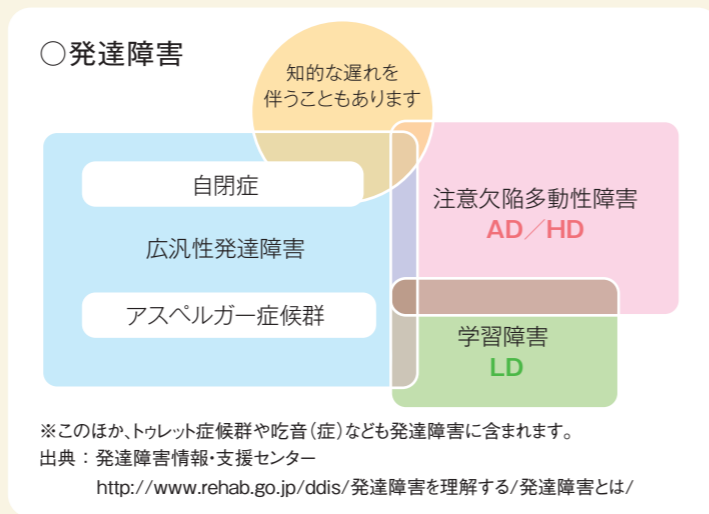
◎知的障害者が保有する「療育手帳」の判定基準は各都道府県により異なる。東京都の判定基準は、1度(知能指数19以下)、2度(同20-34)、3度(同35-49)、4度(50-75)。知能指数70以下は、人口の2.5%とされる。

■精神障害(精神保健及び精神障害者福祉に関する法律)

◎統合失調症、精神作用物質による急性中毒又はその依存症、知的障害、精神病質その他の精神疾患(認知症、気分障害[うつ病、双極性障害]、てんかん、高次脳機能障害等)を有する者

■発達障害(発達障害者支援法)

◎自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害その他これに類する脳機能の障害であってその症状が通常低年齢において発現するもの



性暴力とは

日本の法律には、「性暴力」の定義はありません。

しあわせなみだでは性暴力を「本人が望まなかった性的なできごと」としています(詳細は <https://synodos.jp/society/18183>)。

●具体的には以下のようなことです

[刑法] 強制性交等(性器性交、口腔性交、肛門性交)/強制わいせつ

[虐待防止法(児童・障害者・高齢者)] 性的虐待

[児童買春・児童ポルノ禁止法] 買春、児童ポルノ

[私事性的画像記録の提供等による被害の防止に関する法律] リベンジポルノ

[都道府県迷惑防止条例] ちかん

発達障がい児者への性暴力の現状

東洋大学社会学部社会学科 助教 岩田千亜紀



発達障害者の性被害の割合は、男女ともに一般のデータと比べて高く、特に女性ではかなり高い可能性がある。

●内閣府調査(2017年)[1]では、無理矢理に性交等をされた経験があるのは4.9%(男性1.5%、女性7.8%)であったのに対し、今回のアンケート調査で「望まない人にセックスされる」経験があったのは22%(男性0%、女性33%)に上る。

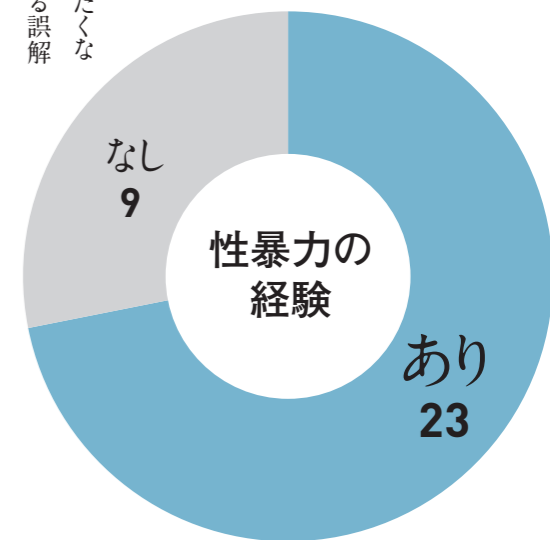
●調査の対象者が発達障害者の母数を代表したものでないため、「発達障害者の全般が性被害に遭いやすい」という結論を導き出すことはできないが、「傾向が高い可能性がある」という指摘はできる。

性暴力被害にあらう要因の多くが、以下のような発達障害の特性に関係していると考えられる。

- 自己肯定感の低さ
- 孤立感からくる、依存の高さ
- 孤立感からくる、相手に嫌われたくないの思い、さらにそれに起因する誤解(好きだと思われてしまう)
- 孤立感からくる、相手に嫌われたくないの思いからの断れなさ
- 信じやすさからくる騙されやすさ
- 相手の気持ちに気づくことが難しい

発達障害者への性暴力の被害・加害を予防するためには、以下のような3つの要素が必要であると考えられる。

- 1 自己肯定感の向上につなげるために、本人および社会が発達障害者の特性を認めること
- 2 孤立を防ぐために居場所をつくること
- 3 同意等について学ぶために性教育を実施すること



これまで海外での調査では、「発達障害者の中に知的障害者が多くいる」と、そして「それらの人たちに性暴力被害が高いこと」が言われてきました[2]。今回の調査からは、「知的障害のない高機能群の発達障害者においても性暴力被害が高い可能性がある」ということが、新たな知見として言えるのではないかと考えます。

上記結果から、刑法において、発達障害者を含む障害を持つ性暴力被害者に対する新たな法的措置の検討ということが、大事だと考えられます。

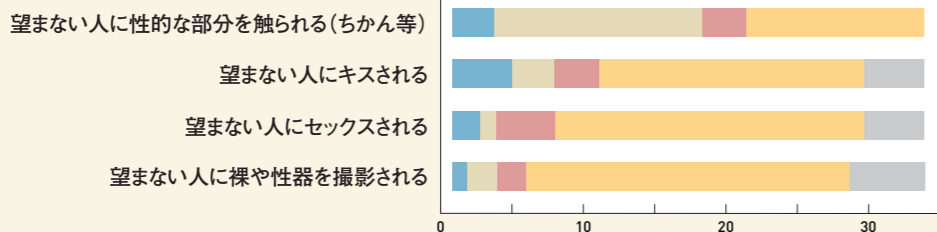
「障がい児者への性暴力調査」結果

実施期間：2018年3月1日～31日(うち開所日は26日) / 実施場所：発達障害当事者のフリースペース Necco (東京都新宿区)
実施方法：スペース内に調査票を設置し、希望者が回答/回答数 32

1 あなたは以下の行為を経験したことはありますか(それぞれについて1つに○)

※「望まない人」には、他人だけでなく、友人、家族、親戚、夫、パートナーなど、顔見知りの人も含めます

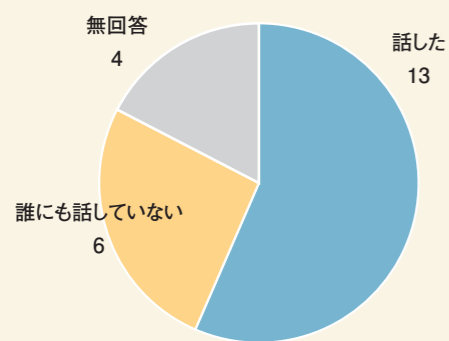
■ 何度もある ■ 数回ある ■ 1回ある ■ ない ■ 無回答



32人中23人が、何らかの性暴力を経験していました

11人は複数の性暴力を経験していました

2 1で「何度もある」「数回ある」「1回ある」と回答した方へ 性暴力の経験を誰かに話しましたか(1つに○を)



「話した」と回答した方へ 誰に話しましたか(いくつでも○を)

- 1 友人・知人 9
- 2 家族や親戚 4
- 3 警察 3
- 4 医療機関(医師や看護師) 2
- 5 民間の専門家や専門機関(弁護士・カウンセラー等) 2
- 6 学校関係者(先生、スクールカウンセラー等) 2
- 7 警察以外の公的機関(役所や男女共同参画センター等) 1
- 8 インターネットやSNS 1
- 9 その他 1

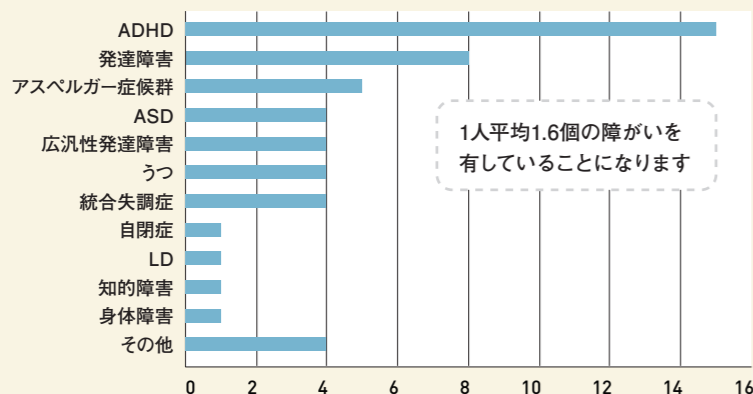
警察に相談した人は、性暴力を経験した23人中、わずか3人とどまっています

3 あなたご自身のことを教えてください

◎年齢		◎性別		◎障がいに関する診断の有無		◎(診断ありと回答した方へ) 診断された年齢	
10代	2	女性	21	あり	26	9歳まで	2
20代	8	男性	10	なし	4	10代	2
30代	7	それ以外	1	無回答	2	20代	10
40代	12					30代	8
50代	2					40代	2
60代	1					無回答	2

多くの人は発達障害であることがわかりませんが、学齢期を終えています

◎診断名(あてはまるものすべての○)



◎手帳の有無

あり	18
なし	12
無回答	2

障害に関する診断を受けた26人中3割は、手帳を持っていないこととなります

◎(ありと回答した方へ) 手帳の種類と等級

精神障害者保健福祉手帳	13(2級 8/3級 5)
身体障害者手帳	1(5級 1)
無回答	4

◎自立支援受給者証の有無

なし	13
あり	11
無回答	8

[出典] [1] 内閣府男女共同参画局「平成29年度男女間における暴力に関する調査」(http://www.gender.go.jp/policy/no_violence/e-vaw/chousa/pdf/h29danjokan-7.pdf, 2018年5月20日閲覧)
[2] Sevliver, M., Roth, M.E., & Gillis, J.M. (2013) Sexual Abuse and Offending in Autism Spectrum Disorders, Sexuality and Disabilities 31(2), 189-200.

Necco創設者

金子磨矢子さんへのインタビュー



「障がい児者への性暴力に対する調査」を実施したNeccoは、発達障害当事者によって立ち上げ、運営されているスペースです。創設者である金子さんは、「発達障害児者が人として当たり前に生きられる社会」の実現に向け、平成28年公布された「発達障害者支援法」の改正法案の制定にも貢献してきています。

これまでの活動や、ご自身と発達障害との向き合い方、障がい児者への性暴力の現状等について、伺いました。

「大人の発達障害」という概念がなかった

金子：15年くらい前から発達障害が、大人にもあることが、だんだんわかってきて。最初はインターネット、SNSとかですよ。それで「自分も発達障害かもしれない」という人たち、コミュニケーション、グループで集まってきた、そこでオフ会というのを、

育つてる人がすごく多いんですよ。友だちとかからも仲間外れにされたりとか、いじめにあたりたりとか。だからもう反射的にこう、「イエス」と言ってしまうような、何か、あるかもしれないですね。

生まれた時から私は私だったので、「こんなもんか」と思ってました。だんだん、大きくなってくるにつれ、「人と違っている」というのは（わかってくる）。学校なんかに行くと、評価が、人と比べるとようになってくるじゃないですか。テストでできない。明らかにできないとか、そういうのは、わかるので。「自分ではできない。ダメな人間だな。」っていうふうに思っていましたね。

それで他の人っていうのは、「みんな努力をしている人なんだ」と思って。感心しているっていうか、尊敬してっていうか。自分以外の人はみんなすごい人だと思っていました。

し：「ほんとに嫌だな」と思っても断われない経験をお持ちですか。

金子：それは何回もありますよね。例えば、この仕事をやっていても、私はほんとにすごく、スキルが何もない、というか、何もできないんですよ。ですから「他の人の言うことが正しい」と、今でも思っているんです。もう、色々話せば長い話ですけども、やっぱり騙されてしまったっていうのが、次

やるようになったんですね。でもそのオフ会というのにも月に1回とか、そういう感じなので、「いつでも行ける居場所がほしい」というのは、みんなの悲願だったわけなんです。それで、「出来たらいいな」と思って、つくったんです。

その頃（Neccoを立ち上げた2010年頃）は、発達障害っていうのは、子どもの障がいであって、「大人になると自然に治るんだ」。そういう概念だったんですね。（子どもには通級等が）徐々にできてきたんですけども。大人に対しては支援がない。大人を診断できるお医者さんがいないという状態だった。

性暴力を経験している障がい児者は少なくない

しあわせなみだ（以下「し」）：今回の「障害者への性暴力調査」には32名から回答していただいたんですけども、金子さんのお話だと、「他の調査で

から次へとあります。

（異性関係で）大変だったこともありですね。ちょっと怖かったこともありですね。ストーカーっていうのではないですけど、追いかけてこられて。必死に逃げたこともありますね。

障がい者が「今までのなぞが全て解けた」

し：ご自身の発達障害に気付いたきっかけが、お子さんだったとお伺いしたのですが。

金子：「のび太・ジャイアン症候群」[1]という本が、初めて、一般書店に出た最初の本なんです。発達障害、ADHDの。それを読んだら私のことが書いてあるので、もう、びっくりしました。

し：子どもの事で、と思って読んだら、自分だった。

金子：いやーもう、ホントに「目から鱗」っていうのはそうことをいうんだな、っていうのは思いましたけれど、もうびっくりですよ。何ていうんでしょうね。この「今までのなぞが全て解けた」というか、まあ、嬉しかったですよ。自分はこの解けたのか」というのがわかって。

「生まれつきこれだったんだ」とすれば、自分の努力が足りなかったわけでもないし、親の育て方が悪かったわけでも

はもつと集まる」と。その、「集まらなかった理由」って、何か思い当たることはありますか。

金子：「触れられたくない」というところが一番だと思いますね。（アンケートを）見るだけ見ても、「あーちょっとこれは」と言って、また戻される方が多かったです。

し：Neccoに来ていてる方に、暴力を経験されている方が少なくない。それで答えづらかったのかなと。

金子さんは日頃から、性暴力に関するお話も聞いている、ということをお伺いしました。

金子：「そんなつもりなかったのに、無理矢理付き合わされてしまった」とか。「ひどい目に遭った」とか、「騙された」とかね、そう言ってくることもあるんですよ。

「距離感」というのが、掴めない、うまく分からない人がすごく多いんですよ。だから、「何月何日にどこで

ないし、仕方ないじゃないですか。だからまさか「原因があった」なんて。それ以来人生がほんとに、別のものになりましたね。それまでは、自分が「いない人間だ」と思っているわけだったんです。

障がい者の結婚・出産・子育てを支えられない社会

金子：昔は、「年齢がある程度きたら、結婚しなくちゃいけない」と思っていたんです。その辺もだから、発達障害だから、そういうふうに思い込んでいたのかもしれない。今思えば、「次に付き合う人とは結婚するもんだな」というふうに思っていたんですよ。それで次に会ったのが、今の夫だったんです。

（今Neccoに来ていてる人たちは）自分が発達障害だと気付いていて、「自分は結婚できるのかな」。しても、「続けられるか」。子どもを産んで育てられるか」ということを、考えてますよね。

し：障がいをお持ちの方で、子どもを育てられなくて、手放されている方も少なくない」と伺いました。

金子：私のばつと浮かぶ何人かの人たちは、「予期せぬ（妊娠）ではなくて、ちゃんと」結婚して、（子どもが）生まれて。だけど、「うまくいかなくて離婚して」という方がほとんどですね。

会いますよ」というふうに言われると、指定されたところに行くんですね。それをまたね「断れない」という。真面目で「言われたから行く」。でも、相手からしたら、「来たっていうことは、そういう気持ちがあったから来てくれた」と思っていますよね。

障がい児ならではの育ちが自己肯定感を奪う

し：発達障害ならではの育ちが、「断れない」ところにつながっていることを、お感じになる時もありますか。

金子：「自己肯定感が低い」というのは、私自身なんかもすごくありますよね。自分自身に自信がないから、「相手の言うことの方が正しいに違いない」と思ってしまうところは、あるんですよ。

私もこの年（64歳）になって、色々なことがだんだんわかってきたところがありますけど、もうずーっとこう、「ダメな子だ、ダメな子だ」と言われて

し：パートナー双方とも障がいがあり、子育てがうまくいかない、ということですか。金子：「だいたい、生まれた子どもも発達障害ってことが多いと思いますね。「別れてから（自分、相手、パートナーに障がいがあることに）気が付く」というほうが、多いんじゃないでしょうか。

し：発達障害を持ち、性暴力を経験した仲間に、ぜひ一言いただきたいです。金子：「受けた側の辛い気持ち」というのは、その人にしかわからないので、何とも言えないところなんです。ただ、日本は確かに、ものすごく遅れているというふうに思います。私も昔はもう、「電車に乗れば、ちかいはいるものだから」と思っていたような時代もありましたけど。ほんとにひどい目に遭っている人の話を聞くと、もう、本当に辛いんですよ。どうやってこう、取り返したらいいのかわからないんですけど。言葉で言ってもあげられないっていうかな。ただね、これからの世の中は、そういうことがないように、

ホント、「いい日本になってもらいたい」と、思いますよね。もうちょっと、こう、「ヤなものはやだ」と、誰もがはっきり声をあげられ拒否をすることができるようになるまで、意識を変えていくことではないでしょうか。

[1] 司馬理英子 1997 「のび太・ジャイアン症候群」主婦の友社

発達障害当事者への 性暴力に関する グループインタビュー

◎実施日時：2018年3月30日
◎実施場所：大人の発達障害当事者のためのピアサポート Necco
◎参加者：合計13名
男性8名
(嘉津山・こう・桜井・senyu・ナナメ・のぶくん・ベガ・ゆうせい)
女性5名(カネコ・カナ・まゆ・みずき・ゆう)

人と違う常識を備える

し：よろしくお願ひします。まず、「自分が性暴力に遭った」、もしくは「誰かが性暴力に遭った」というのを聞いたことがある方は、どれくらいいらっしゃいますか？

(参加者挙手)

し：9人。非常に多いですよ。次に日頃みなさんが、人間関係で困ったなということ、どなたかお話ししたいなっていう方はいらっしゃいますか。

ベガ：僕自身の障害はひとりでいうと「常識に障害がある」という言い方をした方がいいと思うんですよ。だから人と違う常識を備えてるが故に、人と上手く関わる事ができない。人と一緒に対面で関わっていると薄い膜が自分の周りにあるようなイメージが出て。その境界線から自分が出たくても出ようとすることができない。他の人もそこから先、まあ要するに自分のテ

グループに入れない

し：みなさん孤独とか孤立を感じる時はありますか？

(多数がうなづく)

ベガ：健常者の人たちと比べてしまっている人たちのグループが、街中を歩いていて、通り過ぎていくとすらやまし

孤立が依存につながり騙される

し：疎外感とか孤独を、例えば人への依存で解決するとかってありますか。

カナ：何年前にも、お互いに共依存的な友達関係があったりすることが何年かあったなと思って。お互いになんか、なにかあったら、こうワーツと泣きつくように、浴びせまくるような、愚痴をずっと吐きまくったりしていました。

まゆ：私の場合は、頼り下手なので一人で抱えちゃう傾向があって、なんかこう、誰にでも大丈夫、元氣に見せちゃったりしちゃうんで、逆にこう相談をされたりとか、依存されたりする…。されやすくて、それも自分でも抱えきれないから、結局こう「わーっ」てなっちゃうんですけど。断りづらかったり、空気を読み過ぎて、「相手の求めるもの出さなきゃ」ってなっちゃうので、その特性と相手のニーズが合致すると、そういう関係になりやすいのかな、と、そういう関係になりやすいのかな、とちょっと思いました。

のぶくん：自分はTwitterに依存して書きまくったんで。ストレス発散で。まあ、変なことしてきた人間の名前が分かったら、そいつの名前をボツで。

し：人間関係がうまくいかなかったと

くてもしょうがない、とか。

まゆ：自己肯定感が低いので、他者比較とか、世間の圧力とか、そういうのをこう、誰から言われた訳でもないんですけど、なんとなく自分で勝手に感じてしまっ、やっぱり孤独になってしまっ。勝手に世間と私の間に、すごく大きな壁があるって感じてしまうのがある。依存対象が、「すぐ身近にある人」とか、「あるもの」とかって風になりやすいんじゃないかって思います。

こう：小学生入った途端に人間関係にやられて、いじめられたりとかするんですよ。放置とか、される感じ。なんか「孤立している」というのは、「それに入りたくない」とか、「ちょっと違和感を感じる」という所からなんです。

カナ：私、親もちょっと発達ほくって、ちょっとグレーって感じで、親子関係も悪かったりすると、家族との繋がりもちよっと良くなって家にいたくない

嫌われてる子にもあえて近寄っていたり。「年齢問わず付き合わなきゃ」「仲良くしなきゃいけない」という感覚。だから男の人とか、意識がないという感じでいくと、誤解されやすいかな。それに気付かず、相手がどう思ってるかは、まったく気付かない。

思いがけず好意を示される

まゆ：断るのがちょっと苦手で、相手を傷つけることに関して、すごく自分で罪悪感を感じてしまっ。それがすごくいやで。うまく断れないんですよ。言われても、「何となく空気出してるだけどわかってくれない」とか。なので、どんどんつけこまれて、でもなんか、「この人傷つけたら、ちよっとすぐく申し訳ないな」という。自己肯定感も低いので。あつという間にずる行っちゃうって、関係性がどんどん複雑になっちゃうっていうのが、結構あります。

ゆう：「感じよくしなきゃいけない」みたいな掟があるみたいで、相手から「優しい」と言われるんだけど、優しいんじゃないんですよ。ただ「そうしなきゃいけないからしている」だけで、自分の意思じゃないし、やっぱり誤解されるとか。

senyu：結構前なんですけど、友達になつたふた周りくらい年上の女性



とか、家を出たあとも、「家族がいない」

みたいな気分になっているということ。すごい理想が高いというか、「噂とか好きじゃない」とか、「ガールズトークが苦手だから」とか。そういうところで孤立しやすいのかなと。

ベガ：「人と人との交わり境」っていうのが、昔は見えなかったんですけど。まあ要するに、「この人たちはグループに固まっっていて、こういう集団なんだ」とか、そういうのが、属性、まあ、グループのプロパティとか、詳細なプロパティとか。グループごとの区切りだとか、一切見えなかったんで、そういう社会そのものに参加することが出来なかった。そういうところに疎外感を覚えましたね。

がいたんですけど、その人が「鍋パーティー」を家でやるから」とって言って呼んでもらった。「普通に仲良くなったから鍋パーティー誘ってくれたんだな」とって思ってたから、いきなり「彼女いないでしょ？じゃあ付き合おうよ」と言われて、「えっ」て、そのときにもうフリーズして、冷汗がバーって出てきて、どう断ろうみたいな感じ。もううろたえて、LINEとか見ながら「好きな人がいるんですよ。」みたいな感じで（必死に断った）。

「優しくされると、すぐ好きになっちゃう」みたいなのが、多かれ少なかれ女性経験が少ないと発達障害の人、多分なと思うんですけど。例えばインターネットとかの情報を鵜呑みにして、「何回アートをしたら手をつないでいい」みたいなを見て、それでこの前「手つないでいい？」って女性に対して聞いたら、その、「いやいや、そういうのは、ちゃんと空気を読んでやるんだよ」みたいに言われて。そういう「空気を読む」ってことがそもそも出来ない。

し：人間関係の「ちよっと予期せぬところ」を解決しながら、人生を生きていることが良くわかりました。本当にありがとうございます。

「言える立場じゃない」って
いつのが潜在意識にある。

Yさん
(30代女性、発達障害傾向、うつ、解離性障害、自立支援医療で通院中)
・実施日時：2018年4月19日スカイプ

知らない男性に触られる

Y：小学生くらいの時に、バレエ教室の帰りに親を待って、お店のベンチかなんかに座ってたんですね。そしたら知らない男性の人が来て、「おじちゃんの娘もバレエやって、レオタードのサイズを測りたいからお嬢ちゃんの体を測らせてくれ。」って言われて。

私、おかしいなと思ったんだけど、「そうなんだ」と思って、「NO」って言えなかったんですよ、その時。そしたら、体のあちこちを測るふりをして色々触られて、パンツの中に、手を入れられたりして、それでどこか行っちゃったんですけど。「今の何だったんだろう」という感じがすごくて。小学生だったから何が起こったかわからなくて。ただすごくこっぴやかな感じは残ってたんですね。でもすぐ親が迎えに来たんですけど言えなくて。「何が起こったか」というのを自分の中でもその時消化できなくて。ただ感触がずっと残ってて、そのおじさんというか、その人の手とかの感触が「それがなんだったのか」理解するようになってなおさらこう、ずっとこう、傷…、心

の傷と体の感触として残っていて、それが一番、私にとっては一番、負担が大きかった経験ですね。

し：大人や男性から言われると断りづらいつとてありますか。

Y：ありますね。小学生の時はやっぱり人っていう、ちょっと違う年齢のっていう負荷もありますけど、男性にちょっと強い口調で言われると、言えないんですよ。NOって。ちょっと萎縮しちゃうんで私、強めの言葉とかが怖くて。「あつて。それで全然NOって言えなくなっちゃうんですよ、今でも。

暴力的までいなくても、ちょっと強めの口調が「ビクッ」となってしまつう。

「いい子」で育つ

Y：両親はどちらも優しい親だったんですけども。幼少期から「いい子でいなきゃ」という思いがあつて、「親の顔色を見て迷惑かけないようにしなきゃ」という、「いい子ちゃん」演じてきて。「相手が求めるもの出さなきゃ、親が求めるもの出さなきゃ」という感じで、過剰適応な所があつたので。先回りして大人の顔色とかを見て、「相手が嫌がる事は

恋人からの束縛
Y：高校ぐらいかな、付き合ってた相手が束縛タイプだったので、支配的だった印象がありますね。相手は愛情のつもりだったんですけど、自分のにはすごくくつらかったですね。

すごい電話かかってきたりとか、塾にいるのに、「今どこにいるんだよ」とか、「男と会ってるのか」とか言われたり。家の前まで来たりとか。

それで別れたあとも、すごい電話かかってきて、着信拒否しましたけど、本当に怖かったですね。

し：どうやって別れを切り出しましたか。
Y：「受験が忙しくなるから」という大義名分を作りました。自分がいやだつていうのを言えなかったんですね。だからいろんな理由を寄せ集めて、納得させるしかないと思って。「俺変わるから」とか言われると、言われそう、なっちゃいそう、な気がして。だから確固たる理由をいっぱい作って、提示してって感じてでしたね。

し：相手はすぐに納得しましたか？
Y：その時は納得したけど、その後も電話とか普通にかかってきました。本当に怖かったです。

障がい女性が抱えるジェンダー

Y：「いい子ちゃん」で来たりとか、完璧主義的な所もあるので、みなさん。0か

言っちゃいけないんだ」とって、誰に言われた訳でもなく、多分潜在的に思っていた所は大きいかと思います。

今親と話しても、「本当に何にも欲しくないし、おとなしく一人で遊んでたし、心配になるくらいいい子だった」というので。自分で「あーやっぱり、そういうのを演じてたのかな」と思っていますね。

同級生からのわいせつ

Y：中学校2年生くらいかな。日常的に胸触られたりとか。向こうはいたずらつもりだったと思うんですけど。それがどんどんエスカレートしていった時期があつて。一人になった時に、誰もいない教室に数人に連れ込まれたことがあつて、そこで胸触るくらいじゃなくて、大変なことされた経験が一度だけあつて、ひどくこっぴやうに傷ついてしまつて。それは本当に、すごく「人間として扱われない」感じがして、数日何も考えられなかったんですけど、その後、それがちょっと一番傷ついた経験ですかね。

し：特にYさんだけひどかったとか、それともみんなに同じようにやりました？

Y：他の子にもけつこうやってたと思います。でも、やりやすかったのかな、私、か、というのもあるかもしれないですね。ちょっと背低くて、弱々そつだったので、細くて。

そこから、隣に男性がいるだけでも怖

て思います。「体が傷つく」とか、「心が傷つく」とかは当たり前として、それ以上に「人間としての価値」みたいなのを

インタビュー

性被害に遭った自分を
「バカだ。ダメな子なんだ」と
思っていた

Aさん
(60代女性、発達障害傾向、ADHD傾向)
実施日時：2018年4月25日 対面

「傷物」になった経験
A：小学校の、たぶん2年生から3年生に上がる春休みだったんだろうなと思うんだけど、「あれは何だったんだ」と思うようなことがあり。小学校の裏の方で、誰もほとんど来ないとこなんだけど。

私は、みんなが可愛がってくれたけど、「お前はホントに物おじせず、誰でも仲良くなれるのはいいんだけど、ヘンなおじさんについていくんじゃないよ」というふうにすごく言われて、心配されていた。だから、「悪い人にはついていかない」と思っていた。でも一方では「女の子なんだから人には親切、いつも」「二」親切にしないとダメだよ」とも言われていて。

「親切のつもりだったけど、悪い人だつて気づかなかつた私がバカなんだ。なんでわかんなかったんだろう。なんでちゃんと気が付かないんだろう。私はバカ

い。怖くて体硬直したりとかして。いまでも心理的にシャットアウトしちゃう感じはありますね。近付いてこようとすると、自分から始めにシャッターを下ろすみたいな。「近付いてこないで」とってメッセージを送っちゃってるのがあるんですけど、それも自己防衛になつてるのかなっていう。

(相手から)「好意を感じるよ」、「いや、興味ないです」みたいなのを暗に匂わせちゃうというか。

し：それがうまく伝わらなかつたことってありますか。
Y：ああ、それもけつこうありますね。なんか勘違いして、「照れてるんでしょ」みたいな感じの人とかもいますね。事あるごとに、どんどんアプローチしてくる人とか。その辺はちょっとやっぱり難しいですよ。

言えないんですよ。「言わなきゃ」って思つんですけど。「相手を傷つけちゃいけない」というのが、まずあつて。元々自己肯定感もあんまり高くないので、なんかNOって言えない。「言える立場じゃない」というのが潜在意識にあつて、なかなかはっきり言えないですよ。ね。「相手を傷付けたくない」というのと、「どう思われちゃうんだろう」とかいうのが、多分先行しちゃうのかなと思うんですけど。

奪われるっていうのが、すごく大きい経験になつちゃうので、そこから辺まで理解していただけるっていいなと思います。

だ。ダメな子なんだ」というふうに思つた。それはその時すぐ思つたんじゃないんですよ、そのことを思い返すたびに、「なんで私って、ちゃんと分からなかつたんだろう」というのををずーっと思つていて、そのたびに「自分がダメな子だ」というふうになつていったから。

今思うと、挿入されたわけではなかったかもしれないけど、でもほとんど変わらないぐらいの体験なんです。やっぱり相当ショックだったし、違和感のある。「わけがわからなくても違和感がある」とことだつたから。中学生になるまでは、忘れてた。中学生ぐらいになって、だんだんとわかってくるから「私はやっぱりバカだからそうなんだ」というふうになつて、すごく自分の価値を低く感じるようになって。

「すべての人が結婚したら家庭に入る」という時代「処女じゃなければ女じゃない」とみたいな時代に、もう既にお店に並ぶ

前に私は、「傷物になっっているのだ」ということは知っていた。

男性に居座られて

し：DVのことを教えていただいてもいいですか。

A：（相手は）同じ職場の人。12歳年が離れているの。同僚でもあるし、先輩でもあるから。私よい子に育てられていて、先輩をむげにっていうか「いやです」とか「お断りします」とかって、言えないように育てられていたので、「うーん、わかりました」みたいなかんじで行くことがあり、それでなんか、どんどんこっ、きちゃった。

ある時に知り合いに「捨て猫をもらってほしい」と言われて。私猫は好きだけど、私のアパートは飼えないし、「いりません」と言いつて帰ったんだけど。その時一緒にいて、家まで「送ってくれる」と言いつて来た彼は、猫を「もらってきてやっただよ」と言いつて、「僕が昼間からずっと面倒見て、おしこのしつけもちゃんとするから」と、そのまま猫と一緒に



住みついちゃった。

（過去に）中絶を2回ぐらいたった。もうしない。もう自分の体は、もうこれ以上傷めない」と思いつて、「今度も妊娠したら、もう産む」と決めていたんです。だから、「避妊をちゃんとするように」ということだったんだけど。彼はそういうことができない人だから、妊娠してしまっ

夫の友人に脅される

A：夫が（アルコール依存症で）亡くなったし、しばらくしてから、子どもたちに、「夫の郷里を見せてあげよう」と思いつたことがあつて。その時に（夫の）「高校の友だち」に紹介されていた人に電話をした。「せつかく来たんだしたら泊つていきなさいよ」と。もうすぐ妻も子どもも帰ってくるし、（遠方から）来た人を帰しちゃったとかがついたら、後で怒られるから」とか言われて。「そっですか」と。みたいな感じで「泊したんだけど、実はそこに妻はいなかった。その時に、脅されたんです。」「好きにできるんだぞ」と。みたいな感じで。妻も誰もいないわけだし。被害に遭いかける体験をした。

障がい特性が被害をもたらす

A：ずっと仕事してきたから仕事の関係（での被害が）。同じ仲間の中で話している、人が帰って、「同じ方向だから」と。みたいなかんじで、なんか押し切られちゃったりとかがそういう感じですかね。

くらいから行つて、

まあそいつもいたんですけど、もう別に話しかけてこなかったですね。来たなら「さすがに今度は、もうはつきり言つてやろうかな」と思つてたんですよ。でも来なかったの。

し：怖い思いをして、また同じスーパー銭湯、同じ所に行こうと思つたのは。S：他にないし、値段も安いし、好きだったんで。そんな「ゴミのために自分が行けなくなるのはおかしいな、次来たらはつきり言つて、わからせてやろうかなと思つて。

ホテルに連れ込まれる

S：（相手の女性から）話がしたいから会おうよって（ことになって、待ち合わせの）駅に行つたところ、「ちょっと来て」と。腕をつかまれて。（そこに）車が止まっていたんですよ。女性が自分を車に乗せて、走り出しまして。（車を運転しているのは）見たことないおじさんだったんですよ。

山の方か入つてつて、人気のない所まで来て、「おいおいこれなんか俺のこと、みんなポコポコに殴るのかな。」「なんかいやーな予感がしつつも、まあとりあえず、そのままラブホテルに着きまして。」「ここで話しよう」と。みたいな。（運転していた）おじさんサッサと帰つちやつて。「まあとりあえず飲むか」

賢い女性は「あ、この辺で失礼します」と、なんか折を見てさつと出てるけど、私は話すことに夢中で「そっですよ」とか言つて、気がついたら、なんか他にもう1人ぐらいいい女性がいなくて。そろそろ帰ろうと思うと「いや送つてくよ」と。まんまと、そういう、考えとかなきやいけない状況に、「あらっ」という状況にはまつちやつて、何回かそういうことを繰り返している。

障がい者を変える日本

A：今みたいに、確かにね、早く診断がついて、それで苦手なところと得意なところがわかつて、「その人らしい人生のためにはどういうふうに生きていったら」と。というのが考えられるのは、いいことかもしれないけど。日本の社会って、「異質なものはラベリングして排除して箱に入れる社会」だから、早くに診断されること、必ずしもいい方向に行つていないと

インタビュー
まともな
恋人付き合いが
ない

Sさん
（30代男性、発達障害、ASD、アスペルガー、ADHD。精神障害者保健福祉手帳2級）
・実施日時：2018年4月26日LINE通話

銭湯で何度も触られる

S：スーパー銭湯で、男性がついてきて。その時はよくわかんなくて。なんか近寄るたびに僕のお尻を触る。「何みたいな感じで。

（相手が）酔っ払つてきて、向こうがなんか、いろいろ襲い掛かってくるんですよ。女性なんですけど。「おいベルト壊れるじゃないかよ」くらいの勢いで（取り外しに）やつてきて。（相手とは）SNSで知り合つてはいたんですけど、実際に（精神障害者の）自助会で会つたりして。（気に入ってはいたが、相手が既婚者であるため）「話すだけだな」と。自分の中で思つて。

（会つたのは）夜の9時かそのくらい。11時かそれくらいまでしゃべつて、「終電で帰ればいいかな」くらいに一応考えてたんですけど（帰れなくなつてしまつた）。ツイキャスつていう動画配信まで勝手にやつて、その様子を撮ろうと、撮影しようとしてきたんで。それは背中を向けて。そんなねえ、様子を顔とかさらしてインターネットで配信されても困るなと思つて、後ろを向いてました。止めさせましたよ。（でも動画は）配信されちゃいましたね。ただまあ、後ろ姿だけだったの。朝11時かそれくらいにチェックアウトで、あそつた、タクシー呼んだんですよ。「また今度はカラオケでも」なんていうんですかね、「そこでセックス

思うから。私は今の時代に生まれていたら、早くに諦めさせられて、障がい者としての人生を歩まざるをえなかったかもしれないけど、悪戦苦闘して、「ダメだ」とか、「ここは得意だから、ここはやらせて」とか。そういうかんじでやつてきたことで、すごく貧しい才能の、貧しい資質だったかもしれないけど、人間で、そういう自分を、全面的に失敗も含めて、生きて、しょんぼりしたり、「やっただよ」って思つたり、「感情生活を十二分に味わつて、自分の人生を生きることが、人間の幸せだ」ということを、体得したんですよ。だからADHDであることは、あるいは発達障害である事、障がいがあることは、この日本の社会の中で、日本の社会を変えていく、1つの種を持つて、使命を持つて生まれてきたという風に、考えて欲しいなと思つて。

だこいつは？」みたいな感じですよ。自分がサウナにいたら隣にやつてきて、男性器触りながら、こつちの方にやにやした顔で見えてきたりとか。手で直に

を）やつて「みたいなことを言われて、だめ、やんない。」みたいな感じ、まあ言つて。

その後もなんか、Twitterとかで「Sも私をやり逃げした」だとか、何回か向こうが「お前殺す、どうたらこうたら」とか、いっぱい来たんですけど、返事しなかつたら結局（相手が）入院したみたいで。退院して、1、2か月くらいして、「あの時はごめん。」みたいな謝罪が来て。

人間関係は浅く薄く

S：結局僕はまともな恋人付き合ひ、恋愛って、彼氏彼女の関係つてなつた経験がないんですよ。あんまり、そもそも人を「いいな」と。ってなんないんですよ。（恋愛関係つて築きたいなつて）思いますね。（色々な人に会おうと思つて）一番の気持ちというか目的は、「データ収集」ですかね。人間に関するデータが欲しいので。（異性はもちろん）同性でも面白い同性に関してはですね。

（恋愛関係は築けないが、友だちとしての関係は）続きますね。浅く薄くみたいな感じで。普通に「気持ちよかつたね」「楽しかつたね」で、まあ、「いつもありがとね」「じゃあ、またね」と。感じて、やり取りとしている。いつもそれで終わつてい

諸外国の性犯罪規定における 障がい児者の取り扱い

	オーストリア	イギリス	韓国	ドイツ	フランス	カリフォルニア州	ニューヨーク州	ミシガン州	日本	
身体障害	▼抵抗不能な者		▼身体的な障害がある人 ▼障害者の保護・教育施設に従事する者その保護・監督の対象である障害者	▼身体的な疾患若しくは障害を理由に、相談、治療又は世話が行われるに委ねられている者 ▼身体的な理由で反抗不能な者	▼身体障害、身体若しくは精神的欠陥のゆえに著しく脆弱な被害者に対して犯された場合	▼被害者が身体的障害のため、法的に同意する能力を欠いている場合であつて、かつ、そのことにつき、行為者が知っている、又は、合理的に知っているべき場合	▼身体的に無能力であるために同意能力を欠く場合	▼行為者が、被害者が身体的無能力である者であることを知り、又は知るべき理由があること。 ▼身体的無能力である者であり、以下のいずれかに該当すること。 (i) 行為者が被害者の4等親以内の血族又は姻族であること。 (ii) 行為者が、被害者に対する権限を持つ立場にあり、服従させるために被害者を抑圧する権限を行使したこと	身体障害	
知的障害	▼知的障害のため、性的事象の意義を理解し若しくは理解に従って行動することができない者							▼精神障害者(知的障害者)である者であり、以下のいずれかに該当すること。 (i) 行為者が被害者の4等親以内の血族又は姻族であること。 (ii) 行為者が、被害者に対する権限を持つ立場にあり、服従させるために被害者を抑圧する権限を行使したこと	知的障害	
精神障害	▼抵抗不能な者又は精神病、重大な意識障害、若しくはその他これらの状態に匹敵するような重大な精神の不調のため、性的事象の意義を理解し若しくは理解に従って行動することができない者	▼対象者が精神障害を有していること及びそれ故に、又はそれに関する理由のために当該性的接触を拒否することができないおそれがあることを知っていた場合のみならず、知ることを合理的に期待することができた場合	▼精神的な障害がある人 ▼障害者の保護・教育施設に従事する者その保護・監督の対象である障害者	▼中毒症を含む精神若しくは心の疾患若しくは障害を理由に、相談、治療又は世話が行われるに委ねられている者 ▼中毒症を含む精神的若しくは心神的疾患若しくは、深刻な意識障害を理由として、反抗不能な者	▼疾病、精神的欠陥のゆえに著しく脆弱な被害者に対して犯された場合	▼被害者が精神障害のため、法的に同意する能力を欠いている場合であつて、かつ、そのことにつき、行為者が知っている、又は、合理的に知っているべき場合	▼彼又は彼女が、精神的に無能力であるために同意能力を欠く場合	▼行為者が、被害者が(精神的)心神喪失者である者であることを知り、又は知るべき理由があること。 ▼精神的(心神喪失者)精神障害者である者であり、以下のいずれかに該当すること。 (i) 行為者が被害者の4等親以内の血族又は姻族であること。 (ii) 行為者が、被害者に対する権限を持つ立場にあり、服従させるために被害者を抑圧する権限を行使したこと	精神障害	
薬物・アルコール				▼中毒症を含む精神若しくは心の疾患若しくは障害を理由に、相談、治療又は世話が行われるに委ねられている者 ▼中毒症を含む精神的若しくは心神的疾患若しくは、深刻な意識障害を理由として、反抗不能な者			▼彼又は彼女が精神的に能力が剥奪されているために同意能力を欠く場合	▼行為者が、被害者が(物理的)心神喪失者である者であることを知り、又は知るべき理由があること。 ▼(物理的)心神喪失者であり、以下のいずれかに該当すること。 (i) 行為者が被害者の4等親以内の血族又は姻族であること。 (ii) 行為者が、被害者に対する権限を持つ立場にあり、服従させるために被害者を抑圧する権限を行使したこと	薬物・アルコール ▼準強制性交等罪 ▼準強制わいせつ罪	
発達障害				▼発達障害を理由として、反抗不能な者		▼被害者が発達障害のため、法的に同意する能力を欠いている場合であつて、かつ、そのことにつき、行為者が知っている、又は、合理的に知っているべき場合			発達障害	

[出典] ◎ミシガン州：法務省（2014）性犯罪の罰則に関する検討会第4回会議 ミシガン州性犯罪関連条文和訳（www.moj.go.jp/content/001130486.pdf）◎ニューヨーク州：法務省（2014）性犯罪の罰則に関する検討会第4回会議 ニューヨーク州性犯罪関連条文和訳（www.moj.go.jp/content/001130546.pdf）◎カリフォルニア州：法務省（2014）性犯罪の罰則に関する検討会第4回会議 カリフォルニア州性犯罪関連条文和訳（www.moj.go.jp/content/001130487.pdf）◎フランス・ドイツ・韓国：大阪弁護士会人権擁護委員会性暴力被害検討プロジェクトチーム（2014）性暴力と刑事司法 信山社◎イギリス：法務省（2014）性犯罪の罰則に関する検討会第4回会議 イギリス性犯罪関連条文和訳（www.moj.go.jp/content/001130488.pdf）法務総合研究所研究部報告 38（2008）諸外国における性犯罪の実情と対策に関する研究—フランス、ドイツ、英国、米国—（http://www.moj.go.jp/housouken/housouken03_00003.html）◎オーストリア：深町晋也（2016）オーストリア刑法における性犯罪規定 立教法務研究 9 17-74

